
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより 第173号（通巻第240号）

2019年6月6日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
phone 055-220-8325 FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※このセンターだよりで紹介した研究会，研修，教育フォーラム等に関するお知らせは，改変しない限り，自由に複写，配布していただいて結構です。

■ 機能強化による実践センターの新たな船出について

附属教育実践総合センター長 田中 勝

実践センターは、山梨県教育委員会との連携による教員育成機能の高度化を図るため、平成29年度に改組し、教員育成推進部門と附属学校園共同研究部門を新設しました。平成30年度には文科省の「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業を教育学部が受託し、『「やまなし教員等育成指標」に基づいた初任者研修システム及び研修プログラムの実施と検証』をテーマに、学部と実践センターが協働して若手教員学習会や初任者研修会への大学教員の派遣等を行うなど、山梨県教育委員会と密接に連携して山梨県内の教員の資質・能力の向上に取り組みました。

令和元年度（平成31年度）は、教員養成機能のさらなる強化を図るため概算要求を行い、4月より教職支援部門（教職支援室）を拡充しました。具体的には、学生の教員就職を強力にサポートするため、キャリアセンターの教職支援業務と旧教職支援部門の業務を一元化し、学生に分かりやすく、また従来以上に手厚い指導が受けられるようにしました。また、旧教職支援部門は学生への個人面談、教員採用試験に向けての志願書作成・小論文・面接等を行う教職支援領域と、教員をめざす学生が学校教育現場で様々な体験を積むための教育ボランティア領域に分かれていましたが、新たに地域や学校の抱える教育課題の解決をサポートする新たな教育事業を展開するために「地域学習アシスト領域」を、学生カルテ構築や卒業生の追跡調査、教員採用試験に係るデータ収集・分析のために「学生カルテ・分析領域」を新設し、計4領域となりました。

これに伴い、教職支援部門には澤登義洋 特任教授、仁科浩一 客員教授、松野実 客員教授、倉茂花苗 特任助手、小林麻衣子 係長、立川みわ 事務補佐員、望月隆子 キャリア・アドバイザーをお迎えしました。さらに教職支援部門の統括役、学部との橋渡し役として部門長（長谷川千秋 教授）を、また各領域の企画立案や学部との連携・調整のために副部門長4名（清水宏幸 准教授、高橋英児 准教授、新野貴則 准教授、中村宗敬 准教授）を置いて、各事業を組織的に進められるよう体勢を整えました。

もうひとつ大きな変化がありました。この4月に教職大学院も拡充改組しました。これに伴い、実践センター所属の客員教授（みなし実務家教員）の先生方は3名から8名となりました。新たに着任されたのは石丸洋一先生、奥田正治先生、窪田新治先生、輿水清司先生、小林玲子先生、望月栄一先生です。山梨県教育委員会との交流人事による実務家教員も2名増となり、新たに饗場宏 教授と田中一弘 准教授が着任されました。以上の8名の先生方は教育実践研究部門に所属し、期間採用者等研修や山梨大学教師塾プログラムなどの業務をご担当いただくことになりました。

以上のように、この4月から実践センターは大幅に拡充改組し、新たな船出となりました。今年度の事業を進めるにあたり、引き続きみなさまの御理解と御支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

■ 新生教職支援部門のご紹介

教職支援部門長 長谷川 千秋

4月より、附属教育実践総合センターの中の「教職支援部門」が大きく生まれ変わりました。これまでは、教職支援室の客員教授が中心になって、〈教育ボランティア〉の活動支援、進路調査を兼ねた学生への個別面談、教採対策の個別面談等の〈教職支援〉を実施してきましたが、キャリアセンターの教員採用試験支援業務が教職支援部門に移管、一本化されたことに伴い、部門組織が2領域から4領域に拡充されました。新組織では、これまで行ってきた支援だけでなく、新たな〈教職支援〉として教員採用試験対策講座等の運営、さらに、教員採用試験のバックアップとなる〈学生カルテ・分析〉、および教育ボランティアの発展型となる〈地域学習アシスト〉という新事業も企画しています。教職支援全般を幅広く担うこの部門、メンバーは、部門長・副部門長として学部教員5名、さらに教職支援室内は特任教授1名、客員教授4名、特任助手1名、事務4名（兼任・非常勤を含む）となっております。これまでの教育ボランティアや教採対策も新企画を導入するなど、L号館1階がホットになっています。山梨大学から数多くの質の高い教員が育っていくことを願い、みなさまのご意見をいただきながら、よりよい教職支援をめざしていきたいと思います。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 教職支援部門 着任のご挨拶

教職支援室 特任助手 倉茂 花苗

この度、教職支援室に着任をいたしました倉茂花苗と申します。昨年度までは、山梨大学大学院教育学研究科に在籍し、幼少年期の遊びや運動について研究を行っておりました。教職支援室では、主に地域学習アシスト領域及び学生カルテ・分析領域を担当させていただきます。本年度からも山梨大学の一員として、微力ではございますが精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教職支援室 客員教授 仁科 浩一

4月より教職支援室にお世話になることになりました、仁科浩一です。

今、教員を目指す学生の皆さんの熱い心意気を、日々感じています。そんな彼らに、微力ながら少しでもお役に立てればと、考えています。よろしくお願い申し上げます。

教職支援室 客員教授 松野 実

4月より教職支援室にお世話になることになりました松野 実です。平成30年度末をもって南アルプス市立甲西中学校校長を定年退職しました。学校現場での様々な経験を基に、教職を目指す学生の支援に貢献できればと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育学域支援課教務グループ 係長（教職支援室担当） 小林 麻衣子

この度教育学域支援課教務グループへ異動になり教職支援室担当になりました小林と申します。今年度より教職支援室は、キャリアセンターで行っていた教職支援に関する業務が統合されるなど新しい体制になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

このたび、教職支援室において先生を目指す学生の皆さんのお手伝いをするようになりました 立川 みわ と申します。

将来について等いろいろと不安に思うことがあれば、気軽に、教職支援室へお越しく下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

教職支援室 キャリア・アドバイザー 望月 隆子

4月より教職支援室にお世話になることになりました、望月隆子です。

3月まではキャリアセンターで教員採用試験対策講座や就職相談に携わってきました。教員を目指す学生の皆さんの日々の"頑張"や"成長"を、講座をとおして垣間見ることができ、少しでもお力になることがあればと強く思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

■ 福井大学教育学部附属義務教育学校と同教育実践総合センターの視察報告

附属学校園共同研究部門 渡井 渡

附属学校園共同研究部門では、本学教員と附属学校園教員とで構成する「教員養成・教育実践研究協議会」と連携し、大学と附属学校園との連携・協働を一層促進させ、その成果を地域へ提供・還元するために、活動しています。その中で、附属学校園同士の連携を一層進めていくために、先進的な学校を調査することとしました。

平成31年3月25日(月)に附属教育実践総合センター教員1名(渡井渡特任教授)が、福井大学教育学部附属義務教育学校と同教育実践総合センターを訪問し、福井大学における義務教育学校と同教育実践総合センターの運営と取組について聞き取り調査を行いました。

福井大学教育学部附属義務教育学校では、「プロジェクト型学習」をベースに9年間一貫した教育課程において、未来を創る子どもたちの育成に力を注いでおり、本学附属学校園の今後の連携を考えていく上での多くの示唆を得ることができました。また、同教育実践総合センターでは、事業内容とともに課題もお聞きすることができ、今後の本学附属教育実践総合センター運営に役立つ情報を得ることができました。ご多忙の中、対応して下さった福井大学教育学部附属義務教育学校副校長の牧田秀昭先生、同教育実践総合センター専任教員の廣澤愛子准教授には心よりお礼申し上げます。



福井大学教育学部附属義務教育学校



福井大学教育学部附属教育実践総合センター

【調査内容】

福井大学教育学部附属義務教育学校

- 1 設立の経緯
- 2 教員配置
- 3 カリキュラム
- 4 運営上の工夫
- 5 大学とのつながり
- 6 課題と対策

福井大学教育学部附属教育実践総合センター

- 1 組織と事業内容
- 2 現状と課題

■ 令和元年度「第1回連携・教育研究会」の報告

教育実践研究部門 猪股 真弥

令和元年5月16日(木)に、山梨県総合教育センターにおいて、「第1回連携・教育研究会」が行われました。この取組は、教員養成や教員研修に関わって、山梨大学と山梨県教育委員会（山梨県総合教育センター）が連携し、それぞれの「強み」を生かして、双方の成果を上げようというものです。

この研究会は、以下の2つの取組を中心に行っています。

一つは「連携・教育研究会」です。研究会は、年間5回開催されます。この日に行われた第1回は、昨年度の反省と今年度の計画の検討をしました。開催時期を昨年度より5月とし、年度当初より、お互いが連携できる環境を整えました。また、中村学域長にも御出席いただきました。第2回は、山梨県総合教育センターの研究に大学の教員がアドバイザーとして協力していきます。山梨県総合教育センターでは、「グループ・領域ごとのチームとしての協働研究」とし、「資質・能力の育成に向けた学校教育への総合的な支援～生きる力を育む実践的指導の在り方～」という研究テーマのもと、「実践的な学校支援型」の調査研究を行っていきます。グループは4つで、「①授業・学校づくり」「②情報教育」「③教育相談」「④特別支援教育」です。それぞれに研究支援協力校とICT活用校、研究協力校を指定し、2～3年の継続研究を行っていくそうです。山梨県総合教育センターにおける研究への支援に関わって、大学側から今年度は以下の教員が参加します。附属教育実践総合センターからは、田中勝センター長、渡井渡特任教授、山本英寿教授、饗場宏教授、成田雅博准教授、川本静香准教授、猪股真弥准教授、田中一弘准



中村学域長にも御出席いただきました。第2回は、山梨県総合教育センターの研究に大学の教員がアドバイザーとして協力していきます。山梨県総合教育センターでは、「グループ・領域ごとのチームとしての協働研究」とし、「資質・能力の育成に向けた学校教育への総合的な支援～生きる力を育む実践的指導の在り方～」という研究テーマのもと、「実践的な学校支援型」の調査研究を行っていきます。グループは4つで、「①授業・学校づくり」「②情報教育」「③教育相談」「④特別支援教育」です。それぞれに研究支援協力校とICT活用校、研究協力校を指定し、2～3年の継続研究を行っていくそうです。山梨県総合教育センターにおける研究への支援に関わって、大学側から今年度は以下の教員が参加します。附属教育実践総合センターからは、田中勝センター長、渡井渡特任教授、山本英寿教授、饗場宏教授、成田雅博准教授、川本静香准教授、猪股真弥准教授、田中一弘准



中村学域長



田中センター長



佐野センター所長

教授、小川巖客員教授、氏原一宏客員教授、石丸洋一客員教授、奥田正治客員教授、窪田新治客員教授、小林玲子客員教授、輿水清司客員教授、望月栄一客員教授が、そして、大学院教育学研究科からは、障害児教育講座の吉井勘人准教授が参加します。第3回は講演会を行い、第4回はセンター研究大会への協力、第5回は1年間のまとめと次年度の計画検討です。

二つ目は、山梨大学の学生に対して行う「学校制度・経営論」の講義を、山梨県総合教育センターの先生方も担当するという事です。より現場に近い立場で、研究によって培った知見を活かし、教育学部の4年生に対して講義をしていただきます。

双方の「強み」を生かした連携を通して、山梨県の教育の益々の発展に寄与できればと思っています。

■ 令和元年度「地域連携子どもと親と教師のための教育相談事業」第1回連絡協議会のご報告

教育実践研究部門 川本 静香

山梨大学と山梨県教育委員会、教育四者（山梨県PTA協議会・山梨県公立小中学校校長会・山梨県公立小中学校教頭会・山梨県連合教育会）による「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談事業」の第1回連絡協議会が、5月10日（水）に開催されました。県教育委員会から、H30年度の県内のいじめ、不登校に関する統計の速報が共有され、不登校が増加し問題となっていることが共有されました。これを受け、山梨大学委員（川本）より、不登校支援に関する研修を行い、活発な質疑応答がなされました。

■ 令和元年度第1回教育相談室連絡協議会が開催されました

教育実践研究部門 川本 静香

5月21日に本年度第1回教育相談室連絡協議会が行われ、大学教員、大学教育相談室非常勤相談員、附属学校園の教育相談担当教員が集まり、各担当者が教育相談業務の情報共有を行いました。また、地域貢献に資する教育相談活動のあり方についても議論が行われました。

■ 教育実習生に対するメンタルサポートを実施しています

教育実践研究部門 川本 静香

附属教育実践総合センターでは、教育実習生の心身の不調に対して臨床心理士が面接相談によるサポートを実施しています。前期の教育実習期間中、実習校、学生サポートセンターならびに実習委員会と連携しながらサポートを行っております。

これまでのセンターだよりの一部は、<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。